

## 令和5年度 全附属調査委員会 実態調査報告

### ◇調査の方針

調査委員会では本年度、実態調査を実施するに当たり、調査結果の活用を重視し、ねらいを「先生方が働きやすく、生活しやすくなるための、情報の集約・活用」とした。先生方の業務環境の改善は子どもたちの Well-being 実現に直結する重要な命題である。そのねらいの元、学級定員など、学校の枠組みに関するもの、連携・支援体制に係る大学や教育委員会との関係についての調査項目を設定した。

【1】 【2】 【3】 【5】

一方、本調査は、入試や公開研など、全国の附属学校園の状況を共有し、自校園の立ち位置を確認し、改善に繋げていくための定点調査的な役割も担っている。ただ、研究成果の共有など、各部会の調査の方が相応しいと考えられる項目もあったので、大幅に見直し、地域連携や入園・入学選抜、公開研に係るものとした。

【6】 【7】

勤務上の課題については、調査の度に多くの声をいただくが、新しい情報が出てくる見込みが薄い項目もある。今回は昨今の世情も鑑み、いじめと行事・課外活動対応に絞り、働き方に係る部分は支援体制に含めることとした。教育実習対応については過去に寄せられた課題に応える形で、参考資料「教育実習に不適應を起こす学生の対応について」を作成し、共有することとした。

【4】

### ◇報告書の構成

本調査では下記の8項目（114個）の質問を設定した。

【1】 大学との連携について (23)	【2】 学級定員について (21)	【3】 交流人事等について (11)
【4】 教員の勤務上の課題 (8)	【5】 教員に対する支援体制 (31)	【6】 地域との連携、地域貢献 (6)
【7】 入園・入学選抜、公開研 (13)	【8】 調査全体を通してのご意見、ご要望 (1)	

※ ( )内は各項目に含まれる質問の個数。この他に「学校番号」を問うている。

次頁の「目次」に報告書の構成、質問項目の配置を示す。多くは質問と結果が1対1対応になっているが、特に【1】 【2】などで、校種や地域ごとの集計・分析や、前回調査との比較などを行ったため、枠組みに応じた章立てとなっている部分もある。

報告書は【1】～【8】の項目ごとの構成となっており、目次の題目から各項目の報告書にリンクが貼られている。報告書は、「調査項目」「概要」「実態調査報告」の順番に配置した。

※【8】は「実態調査報告」のみ。

※末尾に以下の報告等を配置した。

【資料1】 大学との連携の好事例集

【資料2】 教育実習に不適應を起こす学生の対応

【参考】 R5 非常勤講師の時給について

### ◇コメントの募集について

今回ねらいとした「情報の活用」は単年度の委員会活動では難しい部分もあった。そこで、全附属 HP に【問合せフォーム】を設け、本調査結果に対する改善や活用のご提案を、全国の附属学校園の皆様呼びかけることとした。調査内容についての提案等、お気付きのことも記入していただきたい。このような双方向のフィードバックを通じて、次回調査委員会等で「情報の活用」が深まり、先生方の職場環境の改善、延いては子どもたちの Well-being 実現の一助となれば幸甚である。